

【質の高い授業を展開するために…】

- ◎指導力（授業力・児童指導）を高めるための取組
- ◎教材研究の時間を確保するための取組

豊かな心の教育の推進

- ・縦割り活動を充実します。
- ・左近山特別支援学校との交流の質的向上を図ります。
- ・芸術鑑賞会を実施していきます。
- ・地域人材バンクの活用による地域学習を積極的に実施します。

授業力の向上

- ・「確かな言語能力の育成に迫る資質・能力の系統表」を全職員で活用し、達成への振り返りを行いながら授業改善を行います。
- ・「交流の役割表」を教室側面に掲示し、教科等での活用をすすめます。

保護者・地域とのかかわり

- ・保護者、地域人材による「学校支援ボランティア」を募集し、児童及び学校への支援の充実を図ります。

児童指導力の向上

- ・ケースにより、他機関連携を積極的に進め、家庭を包括した児童への多面的な支援を行います。
- ・教室環境や授業のユニバーサルデザイン化をすすめます。
- ・学年いじめ防止調査〔週1回〕を継続し、いじめに対する教職員の感度をさらに向上させます。
- ・子どもの社会的スキル横浜プログラムを年間計画に位置付け、いじめの未然防止を図ります。

計画的な職員研修

- ・年間を見通した計画的な研修を実施します。
- ・研修の重点化を図り、すすめます。

人材育成

- ・重点研究（来年度は算数科）を通して授業力の向上に取り組みます。
- ・メンター研修の時間を月一回確保し、若手教員だけでなく、中堅、ベテランの教員もかかわりながら人材育成を行います。

業務改善

- ・業務の重点化をすすめます。
- ・教職員が朝余裕をもって登校する児童を迎えるために、市体育大会（6年）、区球技大会（5年）の朝練習を中止します。
- ・横浜市水泳大会は、全市で次年度より開催しないことになりました。



会議の精選と効率化

- ・会議数の精選により教材研究の時間を確保します。
- ・目的や時間を明確にして会議を運営します。
- ・原則、毎週火曜日に教材研究の時間を確保し、日々の授業の質の向上を図ります。

その他

- ・児童の健康を考慮し、熱中症防止対応で運動会を半日開催にします。それに伴い、プログラムの精選を行い、限られた児童のみ参加の応援団、リレーは実施しないことになりました。
- ・授業日の留守番電話時間の設定〔変更 18:00～翌日 7:45〕を行います。
- ・授業参観・懇談会等保護者参加行事を開催する月や曜日の分散化を図ります。

など

	学校だより	令和2年3月25日
	夢中がいっぱい左近山の子	
	～つながる学び（知）・つながる仲間（徳/体）・つながる地域・未来(公/開)～	特別号

中期学校経営方針に基づく学校評価結果〔年間〕



昨年度の自己評価結果を生かし、年度当初より中期学校経営方針に基づいた本校教育活動の計画・運営を行ってまいりました。11月に中間報告をしましたが、1月から2月にかけて年間を振り返りました。12月に実施した児童・保護者アンケートの結果も併せてご報告します。

☞本校の中期学校経営方針については本校 HP を参照

重点取組分野	具体的取組の自己評価結果
豊かな心	①縦割り活動ではY-Pプログラム※'を取り入れ、児童の実態に応じて目的をもって活動をすすめることができた。 ②左近山特別支援学校との交流を開始し、人権意識の向上とともに豊かな心の育成に努めた。芸術鑑賞会は来年度以降実施する。
生きてはたらく知	①国語科を中心とした授業研究の成果や課題をもとにし、交流のあるべき姿について「交流のあり方系統表」を作成した。 ②国語科以外の教科等の交流場面においても、自分の思いを話す力が向上してきている。
未来を創る思い	①地域とのかかわる学習を取り入れるクラスが増えてきた。 ②オリンピック※'による小学校訪問事業を実施し、自分の将来について考える機会を設定した。各学年では社会科見学や出前授業を取り入れ、様々な人とのかかわりをひろげた。
特別支援教育	①個別の教育支援計画・指導計画を作成し、個人面談で保護者と共有し、その後の指導に生かした。次年度指導の引継ぎに活用する。 ②学級の※'ユニバーサルデザイン職員研修を実施して、理解を深めた。時間割等の予定を記入するホワイトボードを全学級に配付し、黒板の効果的な活用を図った。
児童指導	①「めざそう左近山の子」を月毎の生活目標にしたことで児童・教師ともに意識が高まった。「左近山スタンダード」※'で一部曖昧な内容について、指導の一貫性が図れていなかった。 ②Y-Pアセスメントの研修を行い、全体像の把握と実際の活用方法の理解を進めた。
健やかな体	①担当組織が縮小されたにもかかわらず取組内容を減らさなかったために全ての実践をやり切ることができなかった。 ②保護者には、新体力テストの結果を健康手帳で伝えたが、体力づくりについて家庭との連携まではできていない。 ③安全指導に関わる研修は実施したが、体育実技研修は不十分であった。
いじめへの対応	①学校としていじめや差別を許さない毅然とした対応に努めた。 ②週1回の学年いじめ防止会では学年、児童支援専任、管理職と児童の様子を共有し、対応と見守りを継続した。未然防止策として、授業の充実と横浜プログラムの積極的な活用が有効であると考えている。
人材育成・組織運営(働き方改革)	①研究・研修部の中にメンター研修※'を位置付けたことで組織的に育成研修を進められた。 ②職員研修は指導力向上に役立ったが、実施時期の検討が課題である。 ③勤務時間外になる会議も多くあり、時間設定や内容を精選して対応したが、行事の内容そのものを精選しなければ時間の工夫だけでは対応は難しい。

※'Y-Pプログラム…「子どもの社会的スキル横浜プログラム」のこと。本来、家庭や地域や近隣社会において経験すべき様々な体験を、十分になし得ない社会状況にある子どもたちに、これらの体験（横浜プログラムでいう「被受容体験」「がまん体験」「群れ合い体験」の三基本体験）を学校・学級集団の場で経験させ、社会性を育てていくことを目的とした本市独自のグループアプローチ。

※'オリンピック…オリンピック出場経験者。

※'ユニバーサルデザイン…文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障がい・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）のこと。すべての人々にとっても使いやすいデザイン。

※'左近山スタンダード…本校でのきまりや約束事を明記し、児童、保護者、教職員が共有することで指導の一貫性を図るもの。

※'メンター制度…先輩が新人をサポートする制度。メンターとはもともと助言者という意味であり、年齢や業務経験の近い先輩が新人の仕事における不安や悩みの解消、業務の指導・育成を担当。

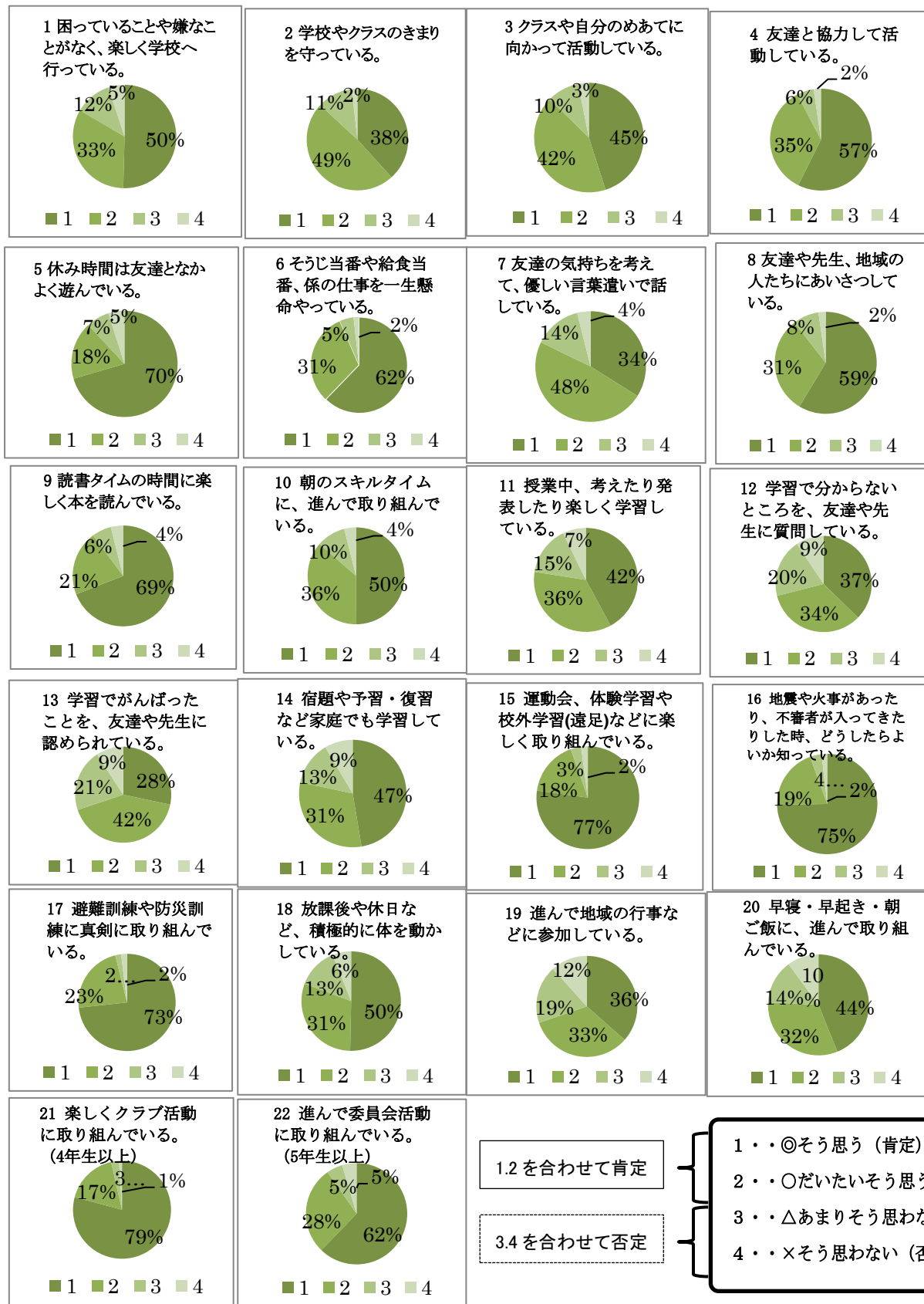
☞ P2.3にアンケート結果を掲載しました。保護者アンケートは昨年度に比較して回収率が11.6%下がりました。インフルエンザによる学級閉鎖で10学級閉鎖していたことも影響したと思われます。

令和元年度 学校評価アンケート【児童】集計結果〔令和元年12月実施〕

回答数：611/648名 <<回収率 94.3%←92.5%〔平成30年度〕>>

令和元年度 学校評価アンケート【保護者】集計結果〔令和元年12月実施〕

回答数：430/648名 <<回収率 66.3%←77.9%〔平成30年度〕>>



全質問22項目中、14項目で肯定意見が昨年度の数値を上回りました。特に、15～17の学校行事の取組は94%以上の高評価でした。11～14の学習にかかわる項目では昨年度に比べ、各2・3・6・3割上昇しました。重点研究(国語科)を中心に取り組んできた成果だと思われます。今後もさらに、振り返りを生かして、研究を積み重ねてまいります。2「きまりの遵守」、4「協力」で各4・1割上昇していることから、今年度は校内が全体的に落ち着いて、様々な活動に意欲的に取り組んでいる様子がみられます。

保護者の皆様からは取組に対して概ね肯定の評価をいただきました。全質問23項目中、18項目で昨年度の数値を上回りました。14授業、15学習習慣では昨年度に比べ各3・4割上昇しました。その影響もあり、8「個への配慮」、9「学習内容の工夫」、10「学習指導」、11「特別支援教育」では肯定意見が90%を超える結果になったと考えられます。昨年度から課題となっていた16「交通安全マナー」、17「あいさつ」、18「礼儀・言葉遣い」では各6・24・10割上昇しましたが、全般的には低評価なので家庭・学校・地域で連携して取り組んでいきたいです。